

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回第2次美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定会議
開 催 日 時	令和8年2月27日(金) 9時30分開会 11時10分閉会
開 催 場 所	美幌町役場 2階 第2会議室
出 席 者 氏 名	宮田委員、伊藤委員、原田委員、信太委員、円舘委員、泊り委員、 弥三谷委員、田中委員、奥山委員、滝川委員、野口委員
欠 席 者 氏 名	幸田委員、小林委員、河端委員
事務局職員職氏名	佐久間農林政策課長、午来農業振興主幹、成田商工観光G主査、 矢口商工観光G主事
議 題	1 第1回の確認事項 2 事業者アンケートと『びほろ』みらいまちづくり会議の結果共有 3 観光資源の整理 4 課題の整理 5 次回までの進め方の整理
会議の公開又は非公開の別	公開
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	0名
会議資料の名称	第2回 第2次美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定会議議案 資料1 事業者アンケートの結果と『びほろ』みらいまちづくり会議の結果 資料2 二次交通整理 資料3 美幌町における星空景観の保全と活用に関する嘆願書
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全部記録
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
その他の必要事項	

発言者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
宮田会長	開催挨拶 議案1・2について事務局から説明をお願いします。
成田（事務局）	1 第1回の確認事項 2 事業者アンケートと『びほろ』みらいまちづくり会議の結果共有（事務局一括説明）
信太委員	二次交通（現場感覚による整理）について資料1のとおり説明
宮田会長	議案1・2について質問等ありますでしょうか。
伊藤副会長	事務局から、アンケート結果について「観光事業者の回答がなかった（少なかった）」との説明があったかと思います。 しかしながら、町内において観光を主たる生業としている事業者はほとんどいないのが実情です。 その現状を踏まえた上で、今回のアンケート結果を捉える必要があると考えます。 「観光事業者の回答があれば内容が変わっていた可能性がある」という整理ではなく、今回得られた結果こそが、現時点における町の実態を率直に表しているものとして受け止めるべきではないかと思います。
宮田会長	議案1・2について他に質問等がありますでしょうか。 （質疑等なし） 議案3について事務局から説明をお願いします。
成田（事務局）	3 観光資源の整理（事務局一括説明）
宮田会長	議案3について質問等ありますでしょうか。
信太委員	アンケート結果では、二次交通は重要度が高く、最もギャップの大きい課題として示されています。 一方、道内観光の多くはレンタカー利用で一定程度カバーされている状況です。 ただし、車を持たない方からの問い合わせも寄せられていることから、町として二次交通をどこまで整備するのか、その方向性を整理する必要があると感じています。 美幌町はハブ的な立地にあり、年間60～70万人が訪れる美幌峠という強みも有しています。この資源を十分に活かすためにも、二次交通の位置付けについて改めて本会議で検討する必要があると思います。
宮田委員	河川敷の観光利用については、以前の第一次観光戦略ビジョンの際にありませんでしたか。
成田（事務局）	総合計画では「美幌川の保全」が位置付けられ、美幌博物館による教育的活用は進められていますが、観光資源としての具体的な展開については、現時点で明確な方向性が見えていない状況です。
宮田会長	みどりの村の整備が進む中で、来訪者を呼び込む一つの資源として位置付けることはできないでしょうか。

	<p>教育寄りの施設ではありますが、美幌町の自然や動植物を理解してもらおう拠点として、観光とも連動できる可能性はあると感じています。</p> <p>また、屈斜路カルデラトレイルにおいて、学芸員の方と連携するような動きや協議はありますでしょうか。</p>
信太委員	<p>トレイル部会に入ってもらいたいという話があります。</p>
滝川委員	<p>美幌博物館と美幌観光物産協会のトレイル部会へ協力しながら行ってきたいという方向性では話しています。</p>
信太委員	<p>美幌駅周辺で滞在時間のある観光客から行き先を尋ねられることがあり、選択肢が限られる中で、美幌神社と並び美幌博物館を案内しています。</p> <p>ただし、徒歩ではやや距離があるため、レンタサイクルを利用される方もいます。</p> <p>みどりの村一帯には自然に触れられる魅力があることから、美幌博物館とみどりの村を一体的に捉え、観光資源として提案していく視点もあるのではないかと思います。</p>
宮田会長	<p>農産物や特産品を、観光や地域ブランドとしてどう利用していくのかを整理する必要があると思います。</p>
滝川委員	<p>観光資源の評価は最終的にお客様視点によるものであり、資料にはその視点が十分に反映されていないのではと思います。</p> <p>今後は、町外の旅行会社や観光関係事業者へのアンケートなど外部の視点を取り入れることで、より説得力のあるビジョンづくりにつながるのではないかと思います。</p>
信太委員	<p>美幌町のふるさと納税の主力は玉ねぎとじゃがいもであり、特に玉ねぎは寄附額が大きく、主力返礼品として位置付けています。</p> <p>北見市の存在は大きいものの、2023年の算出額では美幌町は全国6位という実績があり、これは大きな強みだと思います。</p> <p>ふるさと納税で既に評価され、選ばれているという事実は、玉ねぎのポテンシャルを示しているのではないのでしょうか。</p> <p>一次産品ではありますが、十分に美幌町の強みとして打ち出せる資源だと考えています。</p>
宮田委員	<p>サッシーについて、以前「美幌町が全国シェアのほとんどを占めている」と聞いたことがありますが、それは今も同じような状況なのでしょうか。</p>
泊り委員	<p>他の産地でどれだけ生産されているかの詳細までは把握していませんが、そもそも芋は種がなければ作れません。</p> <p>その種を本格的に生産しているのは、美幌町と、商社が一部青森県で手掛けている程度と聞いています。</p> <p>商社の場合は、その種を全国に販売している形だと思いますが、「産地」としてまとまった形で形成されているのは、美幌町のみという状況です。</p>
宮田会長	<p>アスパラの冬姫はどんな感じですか。</p>
泊り委員	<p>冬姫については、生産量がだいぶ減ってきています。</p> <p>背景としては、やはり光熱費の高騰が大きく、採算が取りにくくなっているという状況があります。</p>

<p>午来（事務局）</p>	<p>アスパラは、ふるさと納税「さとふる」返礼品部門で週間ランキング2年連続1位になるなど、ブランド力は確実に高まっています。 美幌農協でのハウスアスパラは北海道トップレベルの販売単価を毎年維持しています。その背景としては、美幌農協での販売努力とふるさと納税による農家の手取りも向上していることがあります。 美幌町の強みは、ハウス・露地・冬アスパラの3種類を持ち、アスパラを年間で9か月出荷できる点にあると思います。また、施設園芸のアスパラがブランド化しているところも秀逸なところではあります。 美幌町でのアスパラの生産状況についてハウスアスパラの生産は好調です。しかし、露地・冬アスパラの生産は厳しい状況にあり、他産地同様、将来的な存続が懸念されています。そのため、強みと課題の両面を整理する必要がありますと感じています。 また、教育旅行や探究学習、スタディーツーリズムでは、交流人口や関係人口の拡大、いわば“美幌町のファンづくり”を目的とし、地域理解や農業理解の促進を進めています。多様な作物を体験できる点は大きな魅力であり、ビートに加え、アスパラや玉ねぎも十分にコンテンツになると考えています。 ただし学校側の日程が優先されるため、どの時期でも対応できる体験メニューを複数用意しておくことが重要だと考えています。</p>
<p>宮田会長</p>	<p>食を「使う側」の立場として、弥三谷委員は美幌町の食材活用をどのように感じていますか。</p>
<p>弥三谷委員</p>	<p>年間を通して安定的に使える食材は多くないという点がありますが、できる限り地元のものを使いたいと思っています。</p>
<p>宮田委員</p>	<p>旬に合わせて地場産品を使い、PRにつなげることは可能でしょうか。</p>
<p>弥三谷委員</p>	<p>可能ではあります。</p>
<p>宮田会長</p>	<p>そのあたりのコスト面ではどうでしょうか。</p>
<p>弥三谷委員</p>	<p>ただ、旬の時期に地場産品を使ったとしても、その時期は家庭でも同じ食材を日常的に食べていると思います。 そうになると、単に「旬です」というだけでは差別化が難しく、どのように付加価値や違いを打ち出すかが課題になるのではないかと感じています。</p>
<p>田中委員</p>	<p>美幌峠を訪れる方からは、二次交通や町中の見どころ、体験内容についての問い合わせがほぼ必ずあります。 パンフレットで案内していますが、手に取る方は限られており、十分に情報が伝わっているとは言い切れません。 「ここで何ができるか」が一目で分かるシンプルなマップがあれば、町外からの来訪者にとって分かりやすく、回遊や体験のきっかけになるのではないかと思います。</p>
<p>滝川委員</p>	<p>資源を個別に整理するだけでは、取り組みがそれぞれ別の方向に進んでしまう可能性があります。 まず「美幌町はどのような観光地を目指すのか」という上位のブランディングやイメージを定め、その方向に沿って資源を活用していくことが重要だと感じています。 現状では、美幌峠の景色はあるものの、「美幌町といえばこれ」という明</p>

<p>信太委員</p>	<p>確なコンセプトはまだ弱いように思います。 知床や阿寒のように、地域としてのイメージを先に定め、その手段として資源を活用する視点が必要ではないでしょうか。 取り組みが一つにまとまることで、相乗効果も生まれるのではないかと感じています。</p> <p>美幌町は農産物やイベント、美幌峠や国立公園など多様な資源を有しています。 前はそれらをまとめて「ほっとする街」という位置付けで整理しましたが、改めて統一したコンセプトやイメージを打ち出したいという思いがあります。 しかし、現時点では美幌観光物産協会として明確なブランディングを示せていない状況です。 いただいたご意見は重要であり、今後の協議の中でしっかり検討していきたいと考えています。</p>
<p>宮田会長</p>	<p>美幌観光物産協会としては、美幌町の地の利を生かし、周辺地域への観光拠点となる町を目指したいと考えています。 知床や阿寒、屈斜路湖、弟子屈などへアクセスしやすい拠点として位置付けることが現実的な目標ではないかとの意見もあります。 そのうえで、どの資源をどう活用するかの整理は重要だと思っています。 町全体の総合計画とも関わるテーマであることから、方向性も含めて改めて議論の場を設けながら整理していきたいと考えています。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>観光戦略ビジョンで最も中核として議論すべきなのは「組織」、すなわち実行体制をどうするのか、誰が担うのかという点だと考えています。 第一次ビジョンでも多くの意見は出ましたが、実行主体が曖昧なまま各団体へ振り分ける形となり、その結果、この10年間の成果を振り返ると、実行組織の不明確さが一因ではないかと感じています。 第二次では、資源や意見をどう活かし、どうブランディングし、町全体の観光振興につなげるのか、その中核となる組織やマーケティング機能をどこが担うのかを明確にすべきだと思います。 観光客の声の集約や戦略的発信、優先順位の決定を担う主体がなければ、同じ議論を繰り返すことになりかねません。 予算や人材の課題も含め、DMOやDMCのような機能を持つ組織体を視野に入れながら、本計画の中に実行体制を明確に位置付けるべきではないかと考えています。</p>
<p>宮田会長</p>	<p>第一次計画では組織体をつくる方針のもと観光まちづくり協議会が設立され、一定の取り組みが進められましたが、結果的に解散となりました。 個人的には、あの体制が継続していればよかったという思いがあります。 解散後は各団体が個別に取り組む形となり、観光関係者が情報共有する場がなくなったことで、誰が何をしているのかが見えにくくなり、情報共有にも時間がかかっているのが現状だと感じています。</p>
<p>午来（事務局）</p>	<p>観光まちづくり協議会のような重い組織体を改めて設けるのではなく、まずは連絡会議のような緩やかな枠組みを設けることも一つの方法ではないかと思えます。 定期的に情報交換や意思疎通を行い、各自が持つ資源やノウハウを共有しながら、必要に応じて連携していく。 提案し合い、協力しながら一つの取り組みを形にしていくような“ゆるや</p>

	<p>かな横のつながり”を整えることが、現実的な第一歩ではないかと感じています。</p>
野口委員	<p>農業については観光資源にあたらぬのでしょうか。</p>
午来（事務局）	<p>農泊や体験型観光は、明確に観光資源の一つだと考えています。国も観光庁と農水省の連携により推進しており、10年以上前から議論されてきた分野です。病害リスクなどを理由に慎重な意見もありますが、過度に恐れて可能性を閉ざすべきではなく、適切にリスク管理を行えばよいのではないかと思います。七市町連携の協議会でも専門家を招いて議論してきた経緯があり、農業体験は十分に観光コンテンツとして位置付けられるものだと考えています。</p>
野口委員	<p>農業については、RCTのように小さな地区単位で取り組む方が、観光や食と結び付きやすいのではないかと感じています。エリアを限定し、その地区全体で体験や食を組み立てることで、ストーリー性を持たせやすく、展開もしやすいと思います。また、農業に限らず、建築などの資源も観光コンテンツに組み入れる視点があつてよいのではないのでしょうか。ニッチではありますが、一定の関心層は存在すると思います。</p>
原田委員	<p>「滞在してみたい」と思える時間帯や過ごし方を意識してコンテンツを設計するとともに、地場産品を活かした象徴的なご当地グルメを打ち出すことで、「それを目的に行く」という動機が生まれ、観光誘客のきっかけにつながると思います。</p>
宮田会長	<p>議案3について他に質問等ありますでしょうか。 (質疑等なし) 議案4課題の整理(案)について事務局から説明をお願いします。</p>
成田（事務局）	<p>4 課題の整理(案) 今回の会議を踏まえ、改めて課題の整理を行いたいと考えています。4月からはみどりの村指定管理者の追加も検討しており、体制を整えた上で、「連絡会議」のような場を設けるかどうか議論していきたいと考えています。二次交通については、女満別空港から美幌町内を優先するのか、美幌町内から美幌峠への接続を重視するのか、あるいは弟子屈方面まで含めた広域連携とするのか、優先順位を整理していきたいと考えています。また、受入基盤では駐車場の課題もあり、美幌峠のバスレーンの使い勝手やキャンピングカー増加による混雑が問題となっています。現在、レイアウト調整や借上げに関する関係機関との協議を進めているところです。</p>
円舘委員	<p>美幌町における星空景観の保全と活用に関する嘆願書について資料2のとおり説明</p>
宮田会長	<p>議案4について質問等がありますでしょうか。</p>
佐久間（事務局）	<p>みどりの村の整備において、円舘委員のご意見を伺いながら、天体観測に活用できる施設整備を進めています。光害対策を町全体で行うことは容易ではありませんが、まずはみどりの村</p>

	<p>エリアで環境を整えることを目標としています。 観測時に周辺照明を消灯できる仕組みの導入について、円館委員の指導を受けながら協議を進めているところです。</p>
野口委員	<p>二次交通を考えるうえでは、人口構造の変化が重要な前提になると思います。 将来的にタクシーやバスを維持できるかという課題も含め、観光分野だけでなく、人口動態や地域交通全体の視点から整理する必要があると感じています。</p>
宮田会長	<p>公共交通の整備は、観光に限らず町民やビジネス利用も含めた最低限の基盤として確保すべきものだと考えます。 一方で、観光動機の本質は「行きやすさ」よりも「行きたい理由」にあると思います。 まずは食や景観、体験といった魅力があり、その上でアクセスが整っていることが理想的な形だと思います。</p>
信太委員	<p>美幌町内から美幌峠までの二次交通については、まずは最小限の実装から段階的に進めることが現実的ではないかと考えます。 福祉の視点も重要な課題ですが、観光は地域が外から収益を得るための大きな武器でもあります。 経済を支える基盤の一つとして位置付け、福祉や生活交通とのバランスを取りながら戦略的に整備を進める必要があると思います。</p>
野口委員	<p>食の事業は、一から構築する場合は共感を得にくく、継続的な取り組みによって徐々に理解を広げていくことが必要だと思います。 新規事業を立ち上げるよりも、既存の資源や取り組みをブラッシュアップする方が現実的で効果的ではないかと考えます。 また、事業者に協力を求める際には、人口減少や経営不安の中で人的・時間的負担が大きいことを踏まえ、具体的な支援策を示さなければ協力は得にくいのではないかと考えます。</p>
原田委員	<p>観光シーズンに合わせ、季節限定でのバス等の運行を検討してはどうかと思います。</p>
信太委員	<p>以前、女満別—美幌間でバスを運行していましたが、利用はほとんどなく、コロナ禍の影響もあり運行を取りやめた経過があります。 定期運行を再開するには多額の投資や経費が必要となるため、慎重な判断が求められます。</p>
佐久間（事務局）	<p>現在は、定期便ではなくデマンド型交通の導入が可能かどうかを検討しているところです。 本町ではバス運転手不足が深刻であり、限られた人員と財源の中で何を優先するのか整理が必要です。 女満別—美幌間は過去に運行していましたが利用は低調で、再開には北海道の計画への位置付けが必要です。 デマンド型の可能性はあるものの、運転手不足が課題です。 過去のデマンド運行でも十分なニーズは確認できておらず、まずは需要把握が必要です。 検討する場合は、周辺自治体との広域連携が重要だと思います。</p>

宮田会長	峠の湯びほろにおける観光客の利用状況はどのようになっていますか。
奥山委員	<p>平日は主に地元利用が中心ですが、土日には町外や道外からの来訪者も増えている状況です。</p> <p>RVパーク開設以降は、道東観光の拠点として長期滞在される方も見受けられます。</p> <p>滞在者からは食事場所や観光先について尋ねられることが多いため、周辺地域と連携しながら適切に情報提供できればよいと考えています。</p>
宮田会長	<p>議案4について他に質問等ありますでしょうか。</p> <p>(質疑等なし)</p> <p>議案5次回までの進め方の整理について事務局から説明をお願いします。</p>
成田(事務局)	<p>5 次回までの進め方の整理(案)</p> <p>二次交通のターゲット設定や観光事業者からの意見の取り込みなど、多くのご意見をいただきましたので、一度事務局において内容を整理し、メール等でやり取りを行いながら、改めて意見を集約していきたいと考えています。</p>
宮田会長	<p>それでは、全体を通して質問等はありませんか。</p> <p>よろしければ、以上をもちまして閉会します。</p> <p>次回の開催につきましては、5月下旬から6月の間に第3回目の会議を開催する予定で考えています。</p>